

重要な構成要素「旧市河家」^{いちかわや}

建築：1937（昭和 12）年

参道の景観を構成する要素

参道北側の最奥部、二天門^{にてんもん}に最も近い位置にある小規模平入りの木造 2 階建ての建築です。

外装にはモルタルが塗られていますが、一見、白漆喰^{しろしっくい}を塗り籠めた土蔵造のような意匠をもつ点がユニークで、参道の中では異色の建築と言えます。参道に沿って^{ひさし}庇を延ばし、表から奥にかけて 3 段階の屋根構成が見られ、正面を開放しているなど、参道特有のルールに従っている点も見逃せません。

現在は、帝釈天題経寺^{たいしゃくてんだいきょうじ}歴史ギャラリーとして利用されています。



昭和 50 年代の様子（個人蔵）